

## 2022年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

(\*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます)

(適宜行追加可)

受入担当 教員	所属・職	社会学部・教授
	氏名	李建志
海外客員 教員	所属・職	淡江大学 外国語学院日本語文学科・准教授
	氏名	李文茹
招聘目的	1. 授業担当及び研究 ②. 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2022年 9月 20日 ~ 2023年 1月 19日	
成果報告 以下の内容を記載して下さい。	<p>(1) 共同研究の内容</p> <p>李文茹先生は、台湾にある名門私立大学・淡江大学校で教鞭を執る日本文学者です。私と同じく、文学を専門とする方であり、主にフェミニズムや原爆文学、そしてアジア全体に幅広く視野を広げた研究者で、各国の華僑の実態についてもフィールドワークをしてこられました。そこで、私とチームを組み、アジアの文学に関して研究を進めることとしました。</p> <p>その上で、李文茹先生は出身校である名古屋大学の研究チームとともに福島を訪れ、またかつての指導教授である坪井秀人氏（名古屋大学教授から、日文研教授をへて、現在は早稲田大学教授）とも関係を深め、京都にある日本国際文化研究センターでの研究会にも積極的に参加しておりました。さらには、奈良大学で日本の植民地関連の小説を読むというゼミで話す機会を得たうえ、神戸では若手の研究者グループを立ちあげ、研究会を精力的にこなしました。</p> <p>以上のように、研究会への参加や学会活動など、台湾にはなかなかできなかった日本文学研究の最先端に触れるという、有意義な研究活動を行いました。</p> <p>(2) 共同研究の成果</p> <p>12月には社会学部で研究会を開催し、李文茹先生の研究発表があり、李建志がコメンテータをつとめました。それは、あまりいままで研究されてこなかった作家の日影丈吉に関する内容でした。日影は台湾に長く暮らしていた経緯があり、敗戦後の日本で台湾を舞台にした小説を多く書いていることで知られています。日影丈吉には全集があり、未発表原稿や日記にいたるまで収録されているものの、なぜか彼をテーマにした論文はほとんどなく、その意味でも李文茹先生の研究には大きな意味があります。李建志も探偵小説研究をして来た経緯があり、それらの論文に触発された発表だったと、李文茹先生は述べています。今後は日本生まれの台湾人作家・陳舜臣に手を広げ、日本におけるアジア表象という大きな枠組で論文を発表していく所存であるとうかがっております。</p> <p>日影も陳も探偵小説が出发点であるため、純文学研究が中心となる日本近代文学研究の世界ではそれこそ「日陰」の存在ですが、李建志の研究をさらに発展させた李文茹先生の今後の活躍で、日本文学研究の世界に新たな一頁を書き加えることは間違いありません。</p>	
1. 授業担当及び研究		
(1) 授業科目名		
(2) 授業担当の成果		
(3) 研究の内容		
(4) 研究の成果		
2. 共同研究		
(1) 共同研究の内容		
(2) 共同研究の成果		
3. 特別枠		
(1) 活動内容		
(2) 成果		